

## 自己評価報告書

平成23年 5月11日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2008～2012

課題番号：20243030

研究課題名(和文)

都市環境における生活公共性に関する比較社会学的研究

研究課題名(英文)

Comparative Study on Life Publicness in the Urban Environment from Sociological Perspective

研究代表者

田中 重好 ( TANAKA SHIGEYOSHI )

名古屋大学・環境学研究科・教授

研究者番号：50155131

研究分野：都市社会学

科研費の分科・細目：3801

キーワード：公共性、生活、環境、公私関係、都市

## 1. 研究計画の概要

本研究は、西欧社会、東南アジア、中国、日本における公共性の在り方を調査し、比較研究する。公共性という、一般には社会的理念と受け取られがちであるが、本研究では、生活や都市空間に埋め込まれた公私観念を探究する。

この生活や都市空間に埋め込まれた公私観念を研究するために、都市空間の作られ方やそこでの人々の活動の在り方を、具体的には、都市景観、まちづくり、社会福祉政策、観光、教育、ホームレス対策などから探っていく。

## 2. 研究の進捗状況

本研究は、これまで毎年、海外から研究者を招き、公共性に関する比較研究を進めてきた。これは、各参加者にとって、今後の研究を進めるための参考になるばかりではなく、この研究を将来、この時の研究発表を公刊するための準備作業でもある。こうした意味で、公共性に関する国際比較の研究が蓄積されつつある。

さらに、国内の研究者が中国、ヨーロッパなどの地域で、それぞれのテーマをもって公共性にかかわる現地調査を実施しており、それについての研究成果も蓄積されつつある。また、その一部は論文の形で発表されてきた。

国内の町づくりや観光などの事例を通して、公共性に関する調査を実施中であり、その研究成果は、本科研究費にかかわる研究会で発表されているだけではなく、関係学会や論文の形で発表されてきた。

また、こうした具体的なテーマに即した事

例研究だけではなく、全体としての公共性に関する国際比較研究も書籍の形でまとめられ、出版されている(『東アジアにおける公共性の変容』慶應義塾大学出版会(藤田弘夫編)、2010年参照)

## 3. 現在までの達成度

以上の研究を通して、「生活公共性」と呼んできた公共性の概念の社会ごとの違いが明らかになり、さらに、同一社会においても時代的に変化してきたことがあきらかになってきた。くわえて、研究に参加しているそれぞれの領域(都市環境、都市景観、まちづくり、社会福祉政策、観光、教育、ホームレス対策)ごとにも、異なることが明らかになった。こうした社会的差異、時代的な差異、社会の領域的な差異を丁寧に比較検討することが、これからの課題である。

国際比較研究のために、これまでの論文を日本語だけではなく、英語、中国語に翻訳する努力を続け、一部は翻訳が完了している(たとえば、Shigeyoshi TANAKA、*“How should we discuss the publicness”* 参照)。また、公刊はされていないが、中国から招聘した研究者の発表論文はすでに原稿の形として提出されており、将来、報告書としての原稿を蓄積されつつある。

本研究は、前研究代表者藤田弘夫の急逝という事情により、一昨年の後半は十分に研究活動、連携ができなかった。

しかし、昨年度から再度、研究体制も再編され、再出発した。その点では、研究の進展の遅れを取り戻しつつある。

そのため、全体としては「おおむね順調に

進展している」と評価することができよう。

#### 4. 今後の研究の推進方策

今後とも、海外からの研究者（たとえば、南京大学の朱安新先生）の招聘と国内での討論会の開催、国内研究者の海外での現地調査、国内での都市景観、観光、まちづくり、ホームレスといった具体的なテーマに即した調査研究、さらに、こうした研究成果をもちよった国内での研究会の開催を続けてゆく。

2011年3月11日の未曾有の巨大災害が発生した。本研究会としても、公共性という観点から、「災害と公共性」という関連を探り、将来の復興にむけての研究を新たに企画している。

こうしたなかで、今後、英文での公共性の国際比較研究の書籍を編集する作業に取り掛かりたいと計画している。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

藤田弘夫「日本都市社会学の発展と変貌」『法学研究』82-12、pp.159-180、2009年、査読なし

藤田弘夫「空間表象から見た公共性の比較社会学」『現代社会学理論研究』3号、pp.16-27、2009年、査読有

Shigeyoshi TANAKA、*“How should we discuss the publicness”*, Nagoya University

‘SHAKAIGAKU RONSHU’ 名古屋大学社会学論集 No.31 : pp. 151-194、2011年、査読なし

田中重好、「重層的なガバナンスを構想するための覚書」『名古屋大学社会学論集』、pp. 21-38、2010年、査読なし

堀川三郎「場所と空間の社会学」『社会学評論』60-4、pp. 517-534、2010年、査読有

中西典子「英国における官民／公私関係の再構築とパートナーシップ政策の課題—ロンドン東部タワー・ハムレッツ区の事例をもとに—」『立命館大学産業社会論集』46-1、pp19-46、2010年、査読なし

〔学会発表〕（計 4 件）

藤田弘夫、田中重好、熊田俊郎、「公共性の空間表象に関する比較社会学」、慶應義塾大学 東アジア研究所 2008年学術大会、2009

年

田中重好、「地域から生まれる公共性」西日本社会学会第638回大会シンポジウム「公共社会学の構想」、於福岡県立大、2010年

田中重好、「共同性から公共性へ」三田社会学会2010年度大会シンポジウム「都市の公共性」、於慶応義塾大学、2010年

皆吉淳平「臓器移植の「公平性」と親族への優先提供」第36回 日本保健医療社会学会大会、山口県立大学、2010年

〔図書〕（計 5 件）

藤田弘夫、田中重好、熊田俊郎、『東アジアにおける公共性の変容』慶應義塾大学出版会（藤田弘夫編）、2010年

藤田弘夫・橋本和孝・吉原直樹共編、2010『都市計画の思想と展開』（藤田弘夫・橋本和孝・吉原直樹共編）東信堂、2009年

田中重好、『地域から生まれる公共性』ミネルヴァ書房、2010年

友枝敏雄、田中重好、吉野英岐ほか、2010『社会学事典』（日本社会学会社会学事典刊行委員会編）丸善

麦倉哲ほか『新しい公共と自治の現場』（寄本勝美・小原隆治編著）コモンズ

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

様式 G-7-2

## 自己評価報告書